

## 室内環境学会理事長からのご挨拶 ～室内環境学のより一層の発展と健康で豊かな社会づくりへの貢献～



一般社団法人室内環境学会 理事長  
関西福祉科学大学 教授  
東 賢一

室内環境学会第16代理事長に就任し、ご挨拶をさせていただきます。

2020年初めに新型コロナウイルス感染症のパンデミックが発生し、世界の状況が一変して3年を超えました。本学会の会員の皆さまをはじめ、室内環境に関わる多くの方々がこのパンデミックに立ち向かい、基礎的な研究や感染症対策に関わる研究や技術開発まで多岐にわたり活動を進めてこられました。本学会でも室内環境における新型コロナウイルス感染対策ワーキンググループが発足し、調査研究、情報発信、シンポジウム開催等の活動が行われてきました。日本では感染症法における分類が本年5月8日より5類感染症となる見込みとなり、今年は大きな転換期になるものと思われまます。

室内環境学会は、1994年に本学会の前身となる室内環境研究会が発足してから間もなく30年を迎えようとしております。1990年代に室内環境中の化学物質や微生物などに起因する健康影響の問題が大きく取り上げられるようになり、これまでの間、会員の皆さまのご尽力により、室内環境に関わる多くの科学的知見や技術が創出され、室内環境における問題解決に貢献してきました。近年、世界的に大流行した新型コロナウイルス感染症に対しても、パンデミックの初期段階から科学的な議論や調査研究が始まり、その後対策に関わる技術開発もなされてまいりました。ここに改めて、会員の皆さまのご尽力に敬意を表したいと存じます。

しかしながら、化学物質や微生物による室内環境汚染には引き続きいくつもの課題が残っており、健康増進、疾病予防、疾病負荷の軽減、健康格差の是正を目的に、国際機関や日本の関係省庁でも引き続き大きな課題として取り上げられています。新型コロナウイルス感染症においても、その大半が室内環境で生じていることから、室内環境における二次感染の動態解明や感染予防に関するさらなる科学的知見や技術の創出が強く求められています。

こうした状況において、本学会は、学術的および社会的にも重要な役割を担っています。本学会には、自然科学、工学、農学、医学、薬学など幅広い専門分野の会員が参加されており、学術的な研究のみならず、技術的対策に関わる研究開発を行っている会員も参加されておられます。本学会は、学術的な知見の創出に加え、実用的な面でも社会に貢献できる学会です。このような特徴も活かしながら、会員の皆さまとともに、さらなる活動を行っていきたくと考えております。また、学会が継続して活発な活動を行うには、若手研究者を中心とした人材育成が不可欠です。本学会では、学術大会の発表において、本学会の将来を担う若手研究者の素晴らしい活躍が頻りにみられます。このような人材の育成を強化し、さらに活動が活性化するような取り組みも行っていきたいと思っております。そして、学術的な面からは、立場を超えて自由な発言や討論ができる風通しの良い雰囲気作りを行っていきたくと考えております。

これらのことを踏まえ、今期は組織改革も進め、1) 若手研究者を中心とした人材育成の強化と活動の活性化、2) 室内環境研究の促進、3) 関連学会等との連携や協働の強化、4) 政策や社会への提言の促進、の4つの柱を中心に活動を進めてまいります。

会員の皆さまにおかれましては、本学会のさらなる発展のため、学会活動へのご参加、ご支援、ご助言などにつきまして、お力添えを賜りますよう、何卒よろしくごお願い申し上げます。